

国際ボランティア

学籍番号 B120435 西川ゼミ所属 三好秀雄

ボランティアの内容

環境保全と日本人協会の展示を手伝い、日本の文化をオーストラリアの人々に知ってもらうことです。

私はオーストラリアのダーウィンという北端の街に行ってきました。8月20日から9月7日までの18日間です。日本を出発して、シンガポールを経由し、ダーウィンに行きました。たどり着くのに16時間もかかりました。ダーウィンの空港は、広い草原に、赤い土の滑走路が一本広がっているだけでした。正直、こんな田舎の都市とは思っていません、びっくりしました。ダーウィンという街は日本の空襲とトルネードのせいで、2回街がなくなったそうです。ダーウィンは高い建物がなく、低い建物ばかりで開放感に満ちあふれていました。ここでの気候は雨期か乾期の二択らしいです。5月～9月は乾期で毎日晴れ模様。10月から4月まで毎日雨というはっきりとした気候です。僕が訪れたときは毎日晴天で過ごしやすい気候でした。ダーウィンでの生活はバックパッカーの宿に宿泊しながら、平日に国立公園に行き、環境ボランティアするというものでした。休日は現地の日本人団体と合流し、祭りの出し物の手伝い、ラジオの出演、日本文化体験の手伝いなどを行っていました。なにもかもが新鮮で、非常に充実した生活でした。

ダーウィンでの研修計画

- 1つ、ダーウィンという都市と日本の関係を調べること。
- 2つ、ボランティアを通して、自然の大切さ、日本の文化のよさを知ること。

まず1つ目について書きます。ダーウィンは日本と歴史的に関わりが深い都市です。日本人で知る人は少ないですが、第二次世界大戦のときに日本はオーストラリアに本土空襲を行いました。251人がこの空襲で亡くなりました。これはオーストラリアでの初めてにして最大の本土攻撃になりました。私は周りのアジア諸国同様、ダーウィンの人々も日本に対して嫌悪感を持っていると思っていました。しかし、現状は違いました。ダーウィン滞在中に戦争博物館や航空博物館に行きましたが、それらの施設は”日本を恨め！！”という展示方針ではなく、“戦争とはこんなに悲惨なもの、してはいけないもの”という展示方針でした。いまでは、ダーウィンにたくさんの日本食レストランが進出していたり、ダーウィンでとれる天然資源を日本に輸出するという事業も行われています。これからも日本とオーストラリアが友好関係であることを願っています。

2つ目、ダーウィンでは国立公園に行き、環境保護活動をしていました。ダーウィンには、カカドゥ国立公園があり、そこは世界複合遺産に登録されている所です。自分は昔から環境に興味があり、ぜひともそこに行きたいという想いでダーウィンという街を選びました。国立公園では、動物がのびのびと暮らしていて、人間の手がほぼ加わっていない状況でした。普段、人工のものに囲まれて生活している自分には衝撃的なことでした。今の世の中は人間界の中の自然界ではなく、自然界の中の人間界が正しいです。でも、このままでは人間に自然が破壊されます。今回、自分が行った環境保護活動はほんの些細なことでしたが、これからも環境を守る活動を続けて行きたいと考えております。また、日本の文化体験では、日本の文化のすばらしさを実感しました。金魚すくいやおりがみ、これは日本の繊細な技術の上で成り立っています。外国人が簡単にほいほいできるものではありません。

現地での会話力

自分は英語力には自信がありました。なぜなら、自分は日本で京都のガイドを外国人向けにボランティアを行っているからです。しかし、実際に英語圏に行ってみると、自分の英語力に失望しました。それは、英語を話せるのが当たり前の世界で自分の英語力は幼稚園児並みだということを実感したからです。1 to 1ならまだ会話をできる自信はありますが、複数で会話するのは難しいと感じました。英語が聞き取れない分それを補う努力をしました。1つめは、道を聞くときや何かを尋ねるときはそのまま聞くのではなく、地図や紙を利用して、視覚+聴覚を生かしていました。2つめは、いつも辞書を持ち歩き、わからないときはすぐ調べるということをしていました。3つめは笑顔を心がけました。黙っているのは決して機嫌が悪いのではなく、理解できていないのだとわかってもらうためです。英語の重要性にも気づけました。ダーウィンに来る人はみんな英語ができて、英語ができなければ自分の思いも意見も言えません。英語ができなければ、世界の舞台には立てないと思いました。

研修後の成果

3つあります。1つめは、自分は来年交換留学でタイという国に行きます。交換留学を控える者として、海外を留学前に体験できたのと、英語圏に行き、英語力をのばせたということで非常に価値ある海外生活になりました。2つめは、話すことに自信ができました。縁があり、ダーウィンでラジオにゲストとして出さしてもらう機会がありました。そこで、自分はダーウィンに来た理由、ダーウィンで得たことを話しました。放送終了後、話がよかったと反応がたくさん返ってきました。そこで、“自分の話を聞いてくれて、ほめてくれるのだな”と嬉しくなりました。いつも自信がなく、弱気な自分ですが、そこで認めてくれたことで自信ができました。3つめは、ボランティアに対して積極的に参加しようという姿勢と日本人というプライドができました。京都のガイドをするボランティアでは旅行者に日本人代表として、日本の寺や文化などのすばらしいものを外国の旅行者伝えようという気持ちになりました。また、龍谷に留学してくる留学生をもてなすボランティアを始めました。オーストラリアでは旅行者ということでいろんな親切をしてもらいました。夕ご飯をおごってもらったり、パーティーに連れていってもらったり、ホームレスの人に助けられたり。今度は日本に住んでいる日本人として、外国人のみなさんを歓迎し、日本をより満喫してもらえるように努力しようという気持ちが芽生えました。

色んな人の出会い

3人の素敵な人に出会いました

1人目

名前は平山幸子さん

日本の長崎生まれの方でオーストラリア在住履歴は約8年。日本で現職の会計士の仕事を辞職し、オーストラリアの大学に留学されました。卒業してから、仕事をする一方ダーウィンで日本人協会を設立し、その会長としてこの団体を率いてこられました。その功績が認められて、オーストラリアの公務員にアドバイザーとして採用されたという履歴の持ち主です。

これから海外で働こうと思っている私にとっては平山さんの話はものすごく刺激的でした。海外でのルームシェアの話から世界から見ての日本の在り方までたくさん話を聞かせてもらいました。平山さんはものすごく素直な方で、こんなちっぽけな自分の意見でも一言一言を聞いてくれて、話していて本当に楽しかったです。

2人目

名前はコリン君

19歳のオーストラリア人で日本に1年間の留学経験がある方です。今はダーウィンで車の整備士をしていて、来年に軍隊に行くそうです。

高校時代のたった1年間で、コリン君は日本語が堪能になったそうです。日本での留学生活や言語の上達の仕方などたくさん話をコリン君としました。コリン君は、日本はとても大きい国だと言っていました。日本よりも21倍もあるオーストラリアから見て、なぜ大きい国だということかと尋ねたところ、彼はこう答えました。日本は世界に対して非常に影響力が強い。日本の人口はオーストラリアの約6倍。技術も文化も日本の方が世界に影響を及ぼしている “と答えてくれました。

3人目

名前不明

公園で出会ったホームレスの男性

黄昏時に公園での出来事でした。夕日の赤い日差しが西の空に沈み、夜がその公園を支配し始めたころ、私は公園のベンチで一人スケッチブックに公園の描写をスケッチしていました。そしたら、一人のみずぼらしい格好をした男性が”横に座っていい?”と話しかけてきました。もちろん、大丈夫だよ、と言いました。彼はくせのある英語で、何を言っているのかはよくわかりませんが、”キキッ”という柔らかい笑い声が印象的でした。その男性がなにか徐に何かを出しました。それは、サンドイッチを作るための食材でした。彼は夕ご飯を作り始めたのです。私はまだスケッチに没頭していました。そしたら、当然に彼は私に何かを渡してきました。それはサンドイッチだったのです。どこの国から来たのもわからないし、まして数分前に会った私に夕ご飯をわけてくれたのです。そのサンドイッチは今までの人生の中で、最高においしく、自分にとって忘れられないものとなりました。自分はこの優しさをうけるためにダーウィンに来たのかとも思いました。

最後になりましたが、このような素敵な経験、そして成長ができたのは経営学部同窓会の奨学金のおかげです。この経験が自分の自信となり、またこれから立ち上がる壁を乗り越える力となるでしょう。本当にありがとうございました。

